

廃校の利活用の提案

“そこに行けばいつでもみんなの笑顔と笑い声にあふれている”

地域の人たちの心が繋がる場所に

1 レスキューハウスとして

レスキューハウスは、災害時に役立つ地域を守るシェルターのようになります。一階の教室に水や食料の備蓄倉庫を作り、保健室や家庭科室を活かして救護所や炊き出しができる場所にします。一階にあれば、お年寄りの方も階段を使わずすぐ避難できます。

普段は、地域みんながお茶を飲んだり談話をしたりするフリースペースとして解放します。また、癒しの空間、心のレスキューハウスとして憩いを提供します。

2 スーパーやフリーマーケットとして

スーパーに地域のもの卖るようにすれば、観光客にも猪苗代の特産品などが伝わって全国に広まります。「猪苗代町ってこんな町なんだ」、「猪苗代っていい町だなー」と広めることができます。

さらに使わなくなったものやいらないけど使えるものを他の人にあげたいという人もいます。フリーマーケットを開くことによって、再利用することができます。SDGsにもつながります。

3 子どもの遊び場として

体育館は、子どもが思いっきり遊べる場所にします。

子どもたちが天気を気にせず安全に体を動かして遊べる大型キッズパークのような場所にします。大きなトランポリンやアスレチックを用意すれば地域の子供達だけでなく、観光客が雨天時に遊ぶこともでき、遠くからたくさん家族が遊びに来てくれる笑顔あふれる場所になります。

5 宿泊施設として

[道の駅保田小学校](#)(千葉県鋸南町)を参考に宿泊施設としての活用も考えられます。

[道の駅保田小学校](#): 2015年に誕生した、廃校活用の先駆的施設です。校舎の1階には地元の食材を使った里山食堂やカフェが入り、2階の教室がそのまま4人個室や大部屋の簡易宿泊施設になっています。温浴施設も併設されており、アクセスの良さも手伝って大人気の施設です。

廃校を宿泊施設にすることで黒板や教室の形をそのまま残したユニークな施設になります。普段は観光客や合宿の子どもたちが泊まれる場所に、災害時には多くの避難客が安全に過ごせる場所としても大活躍します。

4 自然体験活動ができる場所として

近くにある猪苗代湖の自然を生かした活動ができる場所にします。

湖のゴミやヒシを使い、アートや工作を造ることができます。そのことにより、湖の水質改善に貢献することもでき、湖の自然について体験しながら学ぶことができます。

猪苗代のよさ、美しい湖を体験で楽しむことができるようにします。

